

山 ゆり

7 - 10 月合併号 No392 2020 年 9 月 1 日

初号発行: 1972 年 12 月 25 日

山ゆりの会

年会費 1000 円 (郵便口座 00230-2-42601)

〒242-0026 大和市草柳 1-3-201 草野正昭

Tel/Fax: 046-260-6515 メール: VZM03024@nifty.com

URL : <http://yamayuri.d.doou.jp/>



6 月山行 大山街道

6 月 16 日参加者: 稲田 稲本 小野寺
河又 曾根 浜田 浜田 神保 西村 松田
草野 (11 名)

■大山古道を歩くの 5 回目

何日も見続けていた予報が急変し、前日は
強雨、日曜も雨となった。

天気を考えると、参加者は 5~6 名かな？

は大外れ！ 倍の 11 名にも。不要不急の外
出自粛三か月。皆さんお籠りのストレスが溜り
に溜ったこの日かも。

山ゆり伝統の雨天決行は今回も。心配だっ
た雨は時々パラパラ程度。

「古道を歩く」も 5 回目で、大山が眼前に
なったが視界は生憎だ。当時から数百年も経
ち、その間の農地整備、道路計画、宅地開発
等で街道そのものの付け替え、街道筋の道標、
石造物等が本来の場所から移動や建て直さ
れていたり、舗装された道路を激しく往来す
る車の横を身を寄せて歩く等、どれも致し方
ない事だが、当時に思いを馳せて巡るには馴
染まない。数多くある古刹や神社境内の巨木
や厳かな雰囲気が辛うじて往時へのタイムス
リップを感じさせてくれる。

厚木、岡田、酒井、愛甲、糟屋の五か所の
旧宿場を通過し 9.4KM、久し振りの街歩きで
お疲れとの声が出て、関東各地から大山を目
指す旧街道との合流が多くなってきた咳止め
地蔵の前で本日は解散。今日の残り 2.5KM と
次回 4.8KM で、目出度く大山ケーブル駅に到
着です。 (松田雄二)



7月山行 7月12日

岩殿山 632m

参加者：稲本 小野寺 河又 加藤 曾根 浜田
西村 松田 草野(9名)

■それにしても今年の梅雨はよく降る。集中豪雨も毎年の行事に用になってきた。急峻な山と狭い川の多い日本、山崩れや河川氾濫は何処でも起こり得る。熊本県の球磨川の氾濫、ダムがあればという声があるが、ダムは一時的な水がめ、水源域の湛水能力を超えた集中豪雨が続いたらさほど役に立たない、それどころか二年前の四国愛媛県の肱川流域の野村ダムと鹿野川ダムでは集中豪雨に耐え切れずダム管理者の放流によって下流域で堤防決壊による死者を含む大災害となったことは記憶に新しい。日本のダムの多くで上流からの土砂でダムが埋まり、天竜川の流域のダムには90パーセント以上埋まってしまったダムさえある。新しいダムを造るよりは水源林の保全とダムの堆砂や川床を広げる河川改修の方が急がれる。

さて岩殿山 632m、コロナ禍と梅雨空の中、参加者は老若いや老老男女9名、高尾駅始発の中央線はやはり空いていて楽に座れる。先行組と大月駅合流。岩殿山へは大月駅から1時間半ほどで登れるはずだが、最短ルート丸山公園ルートが昨年の雨で通行止め、裏側の畑倉登山口まで1時間ほど歩く。

畑倉登山口からしばらく登り「鬼の岩屋」の案内板に沿って左手方向に少し登ると垂直な黒く切り立った大きな岩屋があり、岩屋の上から霧状の滝が落ちてなかなか幻想的、流量的には僅かなので梅雨の雨が続いていなかったら滝は落ちていなかったであろう。

長雨で滑りやすい急登を約1時間で山頂に、岩殿山は戦国武田氏の山城、本丸の山頂は電波受信施設？があり展望もない、そこから岩殿山上の城跡の遺構の中を少し下り展望台へ、実質ここが山頂だ。ここで昼食休憩。真正面に富士山、真下に大月の町が見張らせる。



45分ほど休憩の後記念撮影をして「稚児落とし」目指して出発。「アッ、メガネがない」山頂までメガネはしていたはずだ、周辺を皆で探すも見当たらず、あきらめて出発。

山頂からしばらく一気に下り、その後は軽いアップダウンを繰り返し稚児落としへ。稚児落としまでは思ったより長い。クサリ場で二手に分かれるが、巻き道は足元の不安定な急勾配のロープが張られた下り坂で結構厳しい。稚児落としの岩場は岩が滑りにくい岩で快適に超える。稚児落としからは浅利の集落をへて大月まで下るのみ、楽勝と思っていたが、途中から雨が降り始め、雨の中の急な下りにちよっぴり悲鳴？集落に近づくと道は草に覆われて膝から下はびしょぬれになって舗装道路へ。車道を30分ほどで大月駅。

大月駅着 9:27-発 9:40-畑倉登山口 10:35-鬼の岩屋 10:50-632m山頂 11:50-展望台(昼食 12-12:50)-稚児落とし 15:15-浅利登山口 16:30-大月 17:00 (MK)

■梅雨の最中の 今月の山行は岩殿山でした。中央高速を通る度に、頭上の巨大なついたて岩が気になっていて、それが岩殿山と知ってからは、一度は行ってみたい、とずっと思っていました。公園もあり、桜の名所でもあり、城跡もありで、コースの先には「稚児落とし」という、おどろおどろしい名もついた大迫力の岩。実際は大したことは無いのか、あるいは大変なのかつかみかねて、一層興味をそそられるのです。

前日までぐずついていた天気も、歩き始めた頃には薄日が射し、山頂でお昼を食べる頃には、背中がジリジリするほどの暑さでした。さて、稚児落としを目指して稜線を行けども行けども「この先 稚児落とし」、という標識が現れるばかり。この先こそ稚児落としか、と期待しながら小さなアップダウンを繰り返しつつ、途中にはクサリ場や、とらロープの大下りがあったりとスリリングな道をたどるうち、いきなり大粒の雨の辺りの景色が痺るほどの降り方に、九州地方の豪雨を連想したほど。

ここは標高は大したことは無いが、登りも下りも道が急で、濡れていたしホント怖かった。興味深々だった稚児落としは、断崖絶壁をへずって歩くような危険なところではなく、そこが、回り込むようにコースが急カーブするために、切り立った巨岩が間近に望めるという絶景の場所でした。登り始めに立ち寄った鬼の岩窟の、まるで天から布を垂らしたような優雅な水のしたたりや、山頂から眺めた富士山。距離も標高もそう大きくは無いのに、こんなにもバリエーション豊かな山も珍しい。

天気もコースも目まぐるしく変化したこの日は、いつもと同じ一日とは思えない濃い一日でした。（小野寺美智子）

■ 三度目の岩殿山 2004年と2014年に登っている山、大月駅から1時間足らずで山頂、稚児落とし経由で2時間ほどで大月駅に戻って



いるため楽に歩けると思っていました。山頂までの最短コースが通行止め、岩殿上からの登山口も閉鎖、せっかく登った道も下りに、このままでいいのかと不安になっていた時、地元の人に登山口があると聞き前に進む、山をほぼ半周したところが畑倉登山口、地図上では大月駅から40分程になっていたが実際には1時間近くかかってしまった。山頂までのコースタイム40分程だったが雨に濡れた山道はとてとても滑りやすく城跡（烽火台）まで1時間近く掛かった人もいた。ここから10分ほどで展望台、12時過ぎ雪のない富士山を見ることができた。昼食後稚児落とし経由で下山を始めるも鎖や岩の上の通過、通行止めの急な迂回路はかなりの悪路で難儀途中から雨も降ってきていつまでたっても稚児落としに辿り着かない15時半ごろやっと到着、浅利登山口に出た時は雨は上がり大月駅に17時頃全員無事到着、もう山は駄目だと言っていた皆様日頃月1回出来れば2回山道を歩きましょう。数を重ねるごとに歩けるようになりますよ。（曾根弘子）

■朝10時少し前に大月駅を出発、約50分ほど公道を歩き畑倉登山口から登山を開始、登り始めてすぐの「鬼の岩屋」に立ち寄り、山頂を目指す。山頂までは滑りやすいきつい急登が続く。何度も休みながら1時間ほどで632mの山頂に到着。ここは展望がないので

岩殿山城の遺構をたどりながら展望よいもう一つの山頂へ移動し昼食休憩。記念撮影の後、午後1時前に下山開始、下山と言っても丸山公園ルートが通行止めなので「稚児落とし」ルートしかない。稚児落としの岩場を過ぎて下り始めたら雨が降り出し、急傾斜を慎重に下る。4時過ぎにやっと桂川の支流沿いの公道に出る。雨は止んだので雨具をしまうなど身支度を整えて大月駅へ、午後5時大月駅に到着。岩殿山は健脚向きで私には限界でした。皆さんに励まされ無事歩き通すことが出来ました。感謝です。(西村文夫)

■梅の花から梅の実へ

先日、生協で注文しておいた梅干し用の梅が届きました。袋の中に一枚の紙。曾我の梅(十郎)と書いてあり、これって2月の山行で花を観て来た所の「曾我の梅林」の物だと! 2月に花を観てそれから3ヶ月経ち、とても可愛いふっくらとした黄色に熟したいい梅の実です。世の中コロナ旋風が吹き荒れ、自粛だ非常事態宣言と騒がしい中でも、花は目を癒して果実は口の中で美味しさを満喫させてくれる。自然の恵みに感謝しながら梅の実を漬けました。(稲本なお子)

■9月山行：9月13日(日) 高尾山から城山-相模湖 小雨決行 ★

・集合：朝9時 京王線 高尾山口

■10月山行：10月18日(日) 多摩丘陵 小雨決行 ㊦

・集合：朝9時 小田急線 多摩センター

■11月山行：11月15日(日) 大山街道ウォーキング-6 ㊦

・集合：朝9時 小田急伊勢原駅

大山阿夫利神社下社にはケーブルで登る予定です

■12月山行：12月13日(日) 甲州街道 鳥沢一大月 ㊦

・集合：中央線鳥沢駅 朝9時 八王子発8:11に乗車ください。

あとがき ・8/15日、感染者は実に2100万人超、死者も75万人を超え感染爆発は止まる気配なしです。・4-5月山行中止で会報6月号発行できず、例会も山行も思うようにいきません。秋以降もさらに悪くなる可能性があります。いつでも近くで安くPCR検査が受けられるようにならないでしょうか。

・7/16国会にで参考人として出席した東大先端技術開発センターの児玉彦彦教授は東京は既にエピセンター(感染源、感染集積地)になっていて、放っておくと大変な事態になる、大規模なPCR検査で早期発見、隔離の実施を訴えた。政府は国会は開かずGoToトラ

ベルを強行、児玉先生の警告通り感染が全国に拡大している。・8月6日9日、被爆75年目を迎え広島長崎両市長とも核兵器禁止条約の早期署名批准を政府に求めた。安倍総理は日本は立場の違う国の橋渡しを主導するとし、今年も核禁止条約には一言も触れなかった。アメリカの核の傘に入ってどうして核廃絶の主導などできようか? ・広島地裁の黒い雨被爆を認める判決に国、広島市、広島県は控訴、高齢になった被爆者にまだ聞えという非情。被爆者の線引きは許されない。

・夏空に非戦を誓ふ十五日 (MK)